渋沢丘陵の貴重な自然環境を守れ

無所属クラブ　折口　隆二郎

一　市庁舎の今後の在り方について

問　本庁舎は平成25年で築44年目を迎えているが、建て替えなど今後の見通しはどのようか。

答　本市としては従来から長寿命化をキーワードに、日々の維持管理に努め、長寿命化に向けた改修工事などを着実に行っている。

二　保育所の待機児童対策について

問　保育所の待機児童数が全国ワースト1位であった横浜市が、わずか3年でゼロにしたという報道があったが、本市の現状と対策はどのようか。

答　民間保育所の定員の拡大などにより、過去3年間の4月当初の待機児童数は1桁台で減少傾向にある。今後も、民間保育所の協力や公立保育園の子ども園化を図る中で、待機児童の解消に努めていきたい。

三　渋沢丘陵に巨大霊園建設計画について

問　渋沢丘陵の巨大霊園建設計画が進んでいるが、貴重な自然環境をどう考えているのか。

答　環境への負荷を低減し、周辺樹林の乾燥化を防ぎ、少しでも多くの樹林を保全再生し、可能な限り里山環境を再生することが重要であると考える。

要望　一度壊した自然は元には戻らない。環境省が選定した里地里山保全再生モデル地域での霊園計画は進めないでほしい。

築44年目の本庁舎

男女共同参画社会をめざして　女性課長職の登用促進で職員の意識改革を

民政会　古木　勝久

一　女性課長職等の登用について

問　本市の職員づくり基本方針には、男女共同参画社会への考え方が含まれておらず、また、女性の課長職比率は全国平均や近隣市と比べて非常に低い。基本方針に男女共同参画基本計画に基づく目標値を設定すべきと考えるがどうか。

答　平成25年度に、はだの男女共同参画プランを含めた職員づくり基本方針の改訂に着手する予定であり、その中で数値目標や職場環境づくりなどを検討していく。

要望　本市は、40歳代までの女性の離職率が高いが、国は平成32年までに指導的地位の女性割合を上げるよう、目標値を設定している。職場環境改善のため男女共同参画社会の考え方を取り入れてほしい。

二　旧梅原家住宅の建築部材について

問　本市が寄付を受けた建築部材について、教育長名で撤去・処分の協議を申し入れているが、今後の対応はどのようか。

答　保存する会と協議を進め、今後、残していく部材などを厳選していきたい。

三　収蔵物品の保存と活用について

問　市民から寄付された農具や民具などが、小学校に長期にわたり収蔵されているが、今後の保存・活用方法はどのようか。

答　専用の保管場所を確保し、文化財保護委員会の意見を聞きながら整理していきたい。

新東名高速道路の開通に向けて　確かな成長戦略を構築せよ

民政会　神倉　寛明

一　新東名高速道路秦野インターチェンジ・サービスエリア（仮称）周辺の土地活用について

問　経済発展に貢献する、さがみロボット産業特区の対象外である本市が、持続的に成長を続けるためには、確かな戦略を早急に構築すべきである。秦野インターチェンジ・サービスエリア（仮称）周辺の活性化が最重要課題と考えるが、今後の取り組みはどのようか。

答　さまざまな分野の施策を融合させるため、全庁的に検討している。周辺地域は、市街化調整区域であり、土地利用構想の取りまとめを行っている。また、サービスエリアにはスマートインターチェンジを誘致し、未利用地への民間投資を図るほか、農林業や観光が活力ある産業となるよう、民間活力を誘導していきたい。

要望　産業・観光振興、地域の活性化により、雇用の創出、人口・税収の増大など、さまざまな効果が生み出されるよう、総合計画に連動し、本市のポテンシャルを生かした、先を見据えた骨太の成長戦略を立ててほしい。

二　観光資源の活用について

問　丹沢を中心に戸川公園、弘法山などを有機的に関連付け観光振興策を策定すべきと思うがどうか。

答　丹沢を中心にネットワーク化を図り、観光地の周遊や滞在を促進するほか、山小屋の環境整備やハイキングコースの設定に取り組んでいきたい。

サービスエリアのイメージ図

被災者支援システムを導入し　災害時に備えよ

民政会　八尋　伸二

一　秦野の知名度アップについて

問　公共施設にペレットストーブを導入する計画だが、薪ストーブと比較したメリットは何か。また、導入スケジュールはどのようか。

答　ペレットストーブは圧縮成型した固形の木質ペレットを燃料とし、薪ストーブより熱量は低いが、燃料貯蔵、着火、火力調整、消火などの扱いが容易である。平成25年秋までにくずはの家へ設置し、冬の稼働を予定している。

要望　ペレットストーブがマスコミなどに大きく取り上げられるようPRに努め、秦野の知名度アップにつなげてほしい。

二　※地理情報システム（GIS）の利活用について

問　本市には、被災者支援システムが導入されていないが、大災害が発生した場合の行政としての対応はどのようか。また、今後導入する計画はあるのか。

答　避難所従事者が被災者の情報を紙ベースで集約し、避難所ごとに情報をまとめる。平成25年度に、県の地域支え合い体制づくり事業で要援護者システム導入の内諾を得ており、そのオプションとして被災者支援システムの導入は可能なため、必要な予算を確保した上で、検討していきたい。

要望　広域地震や富士山の噴火は長周期で必ず発生する。災害時にも市民が安心して暮らせるよう、被災者支援システムを導入し、災害時に備えてほしい。

丹沢登山の体験で　子どもたちに自信と感動を

公明党　横山　むらさき

一　地域福祉の担い手について

問　一人暮らし高齢者や高齢者世帯の増加に加え、社会情勢が深刻化する中、民生・児童委員の仕事や責任の負担軽減のために、委員の増員や活動の精選、協力員の推進が必要と考えるがどうか。

答　事務局が社会福祉協議会に移り、事業における役割や担い手の構成の検討が進むと考える。市は、本来業務にかかわる部局に働きかけ負担軽減を図っていきたい。

二　急傾斜地の災害対策について

問　温暖化の影響で甚大な自然災害が発生する中、本市には急傾斜地警戒区域の住民も多く、不安が募っている。土砂災害防止のためのソフト面とハード面の対策はどのようか。

答　ソフト面では、平成25年度末までに防災マップを全戸配布し、急傾斜地向けの防災講習会などを開催していきたい。ハード面では、相談があれば現地調査を実施し、防災対策をアドバイスする。

三　山岳特別授業について

問　一部の中学校で行われている山岳特別授業だが、登山の基礎知識だけでなく、遠足などで登山体験の機会を与えるべきではないか。

答　地域の特性に合わせた自然体験学習を大切にし、登山体験ができる環境づくりに努めたい。

四　プレイパークの設置について

要望　自己責任で遊ぶプレイパークには、プレーリーダーが重要なため、人材育成に努めてほしい。

地域活性化には、安心・安全　対策を最優先に取り組め

新政クラブ　今井　実

一　大雨による災害と対策について

問　大きな被害を出した平成25年4月6日の最大時間雨量71・5ミリメートルの大雨は、想定内と考えるべきだが、対応はどのようか。

答　想定内の事態と考え、体制づくりを行った。

問　特に大根鶴巻地区に浸水被害が集中したが、その原因は何か。

答　地盤沈下が一番の要因と考える。

問　浸水被害に怒る市民に対し、その取り組み、周知はどのようか。

答　雨水枝線などの整備を進めるとともに、関係部局と施設点検などを実施し、市民の理解・協力を得られるよう、周知・徹底を図る。

問　新川や大根川の土砂堆積は災害の要因であり、大根川ポンプ場稼働にも影響すると思うがどうか。

答　新川はしゅんせつを実施し、大根川の河床などの整備は、今後も県に対し要望していきたい。

問　浸水対策は、大根川ポンプ場だけでなく、一体的な対応が必要と思うがどうか。

答　できることをスピード感を持って対応し、実態把握に努めながらポンプ場稼働と連動した、効果的な浸水対策を計画し実施したい。

要望　本市もいろいろと活性化に取り組んでいるが、地域の活性化には安心・安全の確保が最優先であり、水路整備をはじめ必要な対策を早急に講じるとともに、スピード感を持って取り組んでほしい。

地域コミュニティーを育てる　地域行事の課題を検討せよ

新政クラブ　川口　薫

一　地域行事の在り方について

問　各地域で行われている市民体育祭は、年々参加者が減少しており、近年では、住民の1割程度の参加率である。地域コミュニティーの醸成に深くかかわる市民体育祭の、5年後10年後を見据えた手立てを検討することが必要だと思うが、地域行事の課題と方向性はどのようか。

答　参加者の減少、偏り、役員負担の大きさなどの課題がある。各地区の情報交換の場を設置し、種目も人気のあるニュースポーツを提案するなど、幅広い年代の市民が参加できる地域行事とし、地域コミュニティーの醸成につながるよう努めたい。

二　横浜女児虐待事件について

問　本市を含め居所を転々とした状況で横浜女児虐待事件という痛ましい事件が発生した。自治体や児童相談所、警察などの対応や課題についての検証はどのようか。

答　関係各課による検証会を立ち上げ、今回のような在学証明書未所持での転入手続きの場合には、学校教育課が戸籍住民課に出向いて確認し、学期ごとに行っていた学齢簿と住民票の点検を毎月行うよう改め、さまざまなケースを想定した手順書を作成中である。また、庁内各課との連携による情報共有のほか、警察署や児童相談所、他自治体などとの連携も重要と考えており、県の検証結果も注視し児童虐待防止の体制を整えたい。

市民体育祭の様子

用語解説　※地理情報システム（GIS）…コンピューター上にさまざまな情報を重ね合わせ、分析、解析を行ったり、視覚的に表示させるシステム